

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-52C	16-020	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Lifestyle Risk Factors for Serrated Colorectal Polyps: A Systematic Review and Meta-analysis. 鋸歯状大腸ポリープの生活習慣リスク因子：システマティックレビューおよびメタアナリシス		
執筆者		
Baillie L, Loughrey MB, Coleman HG.		
掲載誌		
Gastroenterology. 2016 Sep 14. pii: S0016-5085(16)35028-4. doi: 10.1053/j.gastro.2016.09.003.		
キーワード		PMID
大腸ポリープ、生活習慣、非ステロイド抗炎症薬		27639804
要 旨		
<p>目的： 大腸の鋸歯状のポリープ (serrated polyps, SP)は悪性である可能性があるとされている。我々は、改善可能な生活習慣の因子と SPs リスクとの関連を検討するために、システマティックレビューとメタアナリシスを行った。</p> <p>方法： Medline、Embase、Web of Science を用い、2016年3月までに公表された観察研究および介入研究を検索した。条件としては、“risk”あるいは”risk factor”、“serrate”あるいは”hyperplastic”、“polyps”あるいは”adenomas”、“colorectal”あるいは”synonymous”という用語が含まれる論文とした。同定した論文のタイトルとアブストラクトは独立した少なくとも2名によりレビューした。SP リスク評価のため、ランダム効果モデルを用い調整済み相対リスク (RR)および95%信頼区間 (CI)を算出した。</p> <p>結果： 7つの異なる生活習慣因子 (喫煙、飲酒、肥満、食事、身体活動、薬物治療およびホルモン補充療法)と関連した SP リスクを検討した論文が43件抽出された。暴露因子の高カテゴリと低カテゴリを比較すると、タバコ (RR, 2.47; 95%CI, 2.12-2.87)、飲酒 (RR, 1.33; 95%CI, 1.17-1.52)、BMI (RR, 1.40; 95%CI 1.22-1.61)および脂質や肉類の高摂取で SP リスクは有意に増加した。対照的に、非ステロイド抗炎症薬 (RR, 0.77; 95%CI, 0.65-0.92)あるいはアスピリン (RR, 0.81; 95%CI, 0.67-0.99)の使用は、葉酸、カルシウム、食物繊維の高摂取と同様に SP リスクを有意に減少した。身体活動およびホルモン補充療法と SP リスクとの関連は認めなかった。</p> <p>結論： いくつかの生活習慣因子、主に喫煙と飲酒は SP リスクと関連した。これらの結果は、SP 進展のメカニズムの理解を深めるとともに、直腸結腸腫瘍の鋸歯状病変への経路は生活習慣の改善と共に減少する可能性を示した。</p>		